

今こそしっかりと感じてほしい

「おはようございます。TVでニュースを見ていたが、岐阜県に大雨特別警報が出ているようで……皆さんのところは大丈夫ですか？」

昨日、釜戸の同級生ライングループに入ったメールです。送り主は大湫出身の同級生の女の子、いや、女性です。確か、宮城県に嫁ぎました。報道で岐阜県の被害状況を知り、心配するメールを早速送ってくれました。

その後、このメールを読んだ同級生が次から次へと参加しました。私も、勤務している学校が避難所になったことや、土岐川の状況などを報告しました。年齢を重ねる度に、会えない時間がどんどん長くなるのが同級生です。しかし、この日は一人のメールがきっかけになって、同窓会が開かれたような気分になりました。ほっとするひとときでした。

私の同級生は、私も含めて四十九名です。中学校に上がると、大湫小学校（平成十七年三月に廃校）と一緒になり、学年二クラスになりました。現在地元に残っている仲間は十五名ほど。遠くに嫁いだり、仕事の関係で地元を離れたりしている仲間が多くいます。悲しいことにこの世を去った仲間も四人います。全員がそろおうということとは中学の卒業式が最後でした。同窓会を開いても、全員が集まることは二度とありません。

生徒の皆さんの人生は、これからの方がはるかに長いわけです。まだ見ぬ出会いや経験にワクワクするのが当然です。まさに「人生これから」ですよ。

そんな皆さんに伝えたいのは、共に学んだ仲間、幼い頃から共に成長してきた仲間のことを、今こそしっかりと感じてほしいということです。今は自分のそばにいるのが当たり前ですが、いずれはそれぞれの進路に進み、一堂に会することはなくなります。会うことは難しくても、心だけはつながっていてほしい。私は心からそう思います。地元を心配してメールをくれた同級生の女性には、こんな一文も添えていました。

「とにかく、皆さん。早めの避難です！震災を経験している者として……」

彼女は悲しい経験から立ち直り、仲間を心配する気もちとともに、地元愛も届けてくれました。私にとっては、説得力がある温かな言葉でした。

（七月九日 記）